
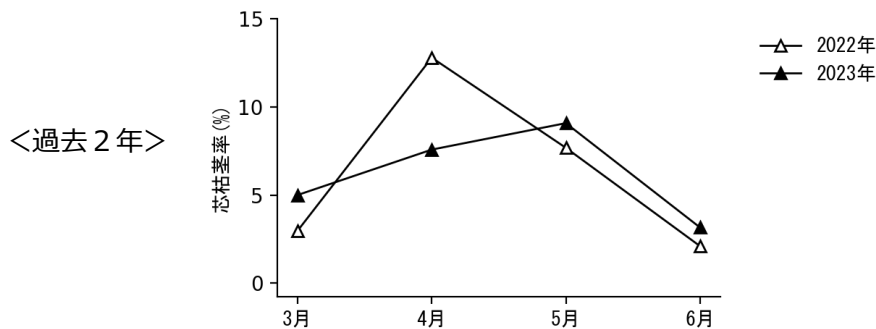
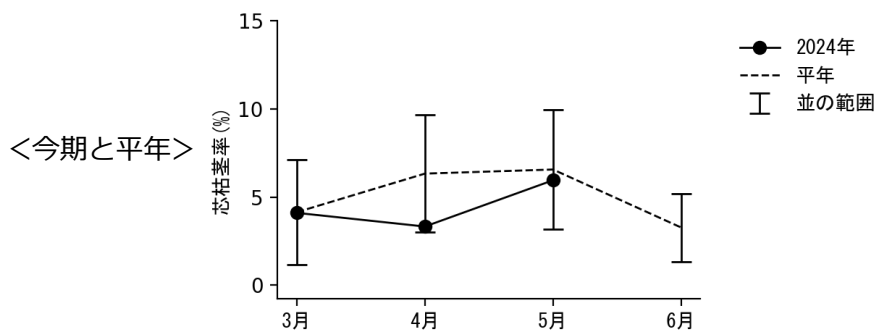


作物	さとうきび		地域	宮古群島
病害虫名	① メイチュウ類 (カンシャシンクイハマキ・イネヨトウ)			
調査結果	5 月の発生量 (平年比)	並		
予報	5 月からの増減傾向	↓		
	6 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↓)		

調査結果


芯枯茎率の推移 (株出し)



- ・発生種：カンシャシンクイハマキ (80%)、イネヨトウ (20%)
- ・発生ほ場率100% (平年：90.9%)

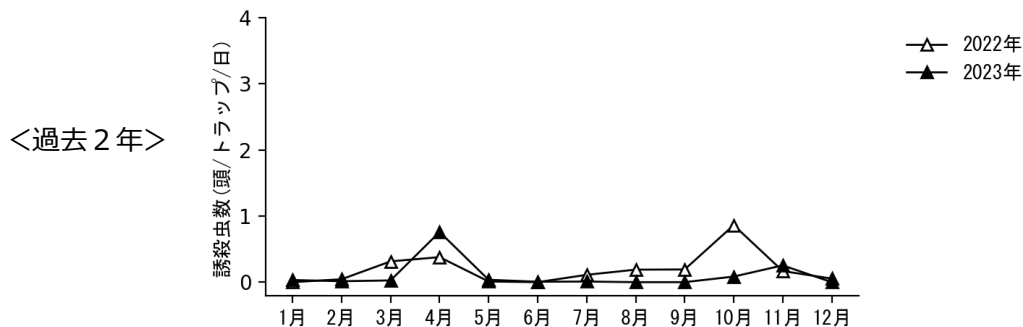
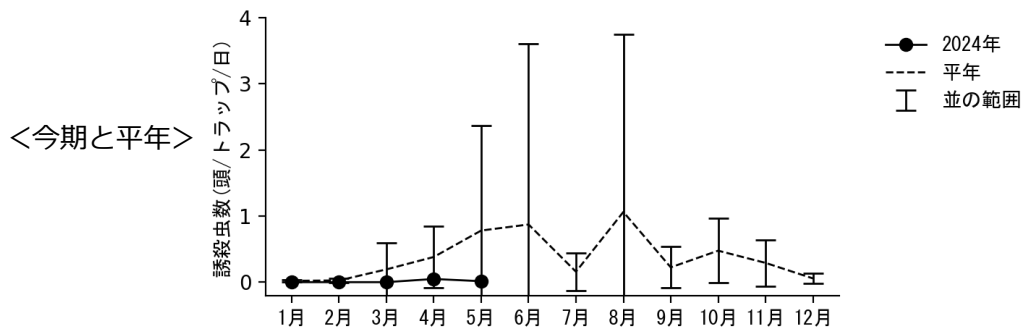
防除のポイント

- ・ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。
- ・茎葉への乳剤は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。

作物	マンゴー	地域	宮古群島
病害虫名	チャノキイロアザミウマ		
調査結果	5 月の発生量 (平年比)	並	
予 報	5 月からの増減傾向	→	
	6 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

トラップ当たり誘殺虫数の推移




・発生施設率40.0% (平年：42.1%)

防除のポイント

- ・不要な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に除去する。
- ・コミカンソウ類など、発生源となる施設内外の雑草を除去する。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

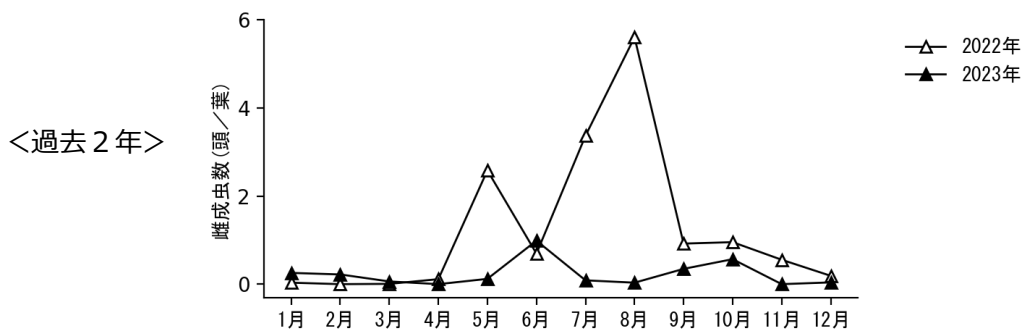
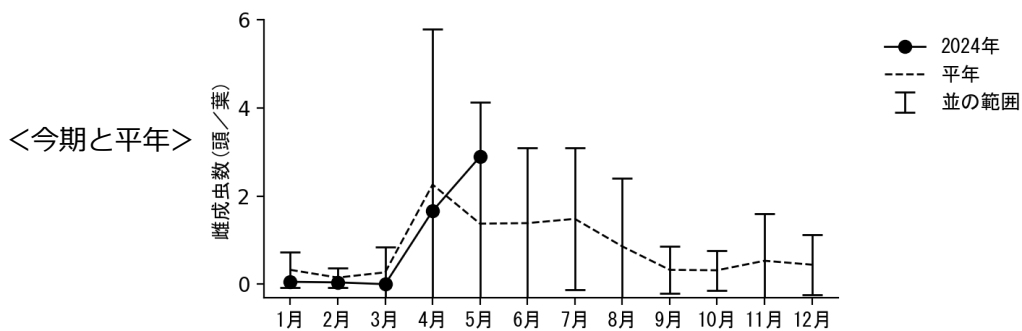


ナガエコミカンソウ

作物	マンゴー		地域	宮古群島
病害虫名	① ハダニ類			
調査結果	5 月の発生量 (平年比)	並		
予報	5 月からの増減傾向	→		
	6 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)		

調査結果

雌成虫数の推移



- ・発生種：シュレイツメハダニ
- ・発生施設率40.0% (平年：36.7%)

防除のポイント


- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。



ハダニの寄生による葉のかすれ症状

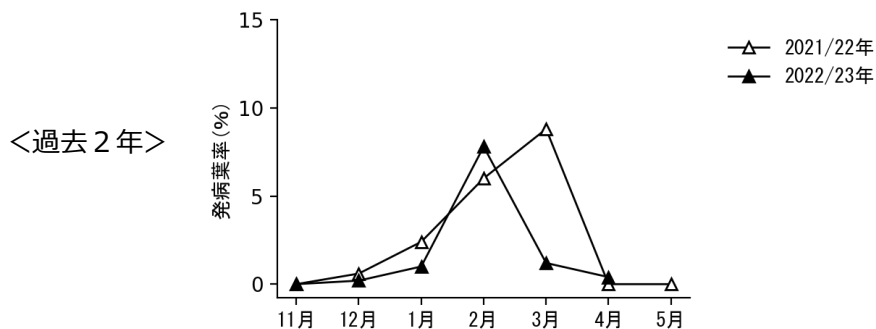
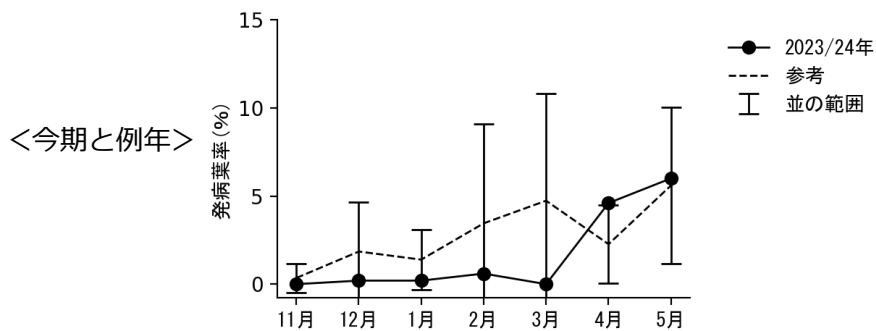


マンゴーツメハダニ

作物	とうがん(施設・立体栽培)	地域	宮古群島
病害虫名	うどんこ病		
調査結果	5 月の発生量 (例年比)	並	
予 報	5 月からの増減傾向	—	
	6 月の発生量 (例年比)	—	
予報の根拠			

調査結果


発病葉率の推移



・発生施設率33.3% (参考 : 37.5%)

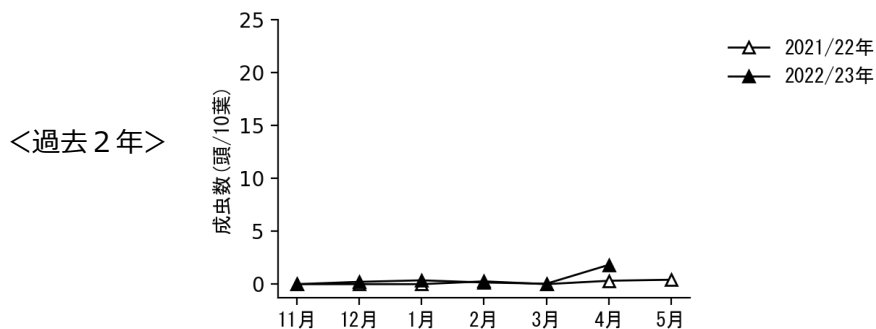
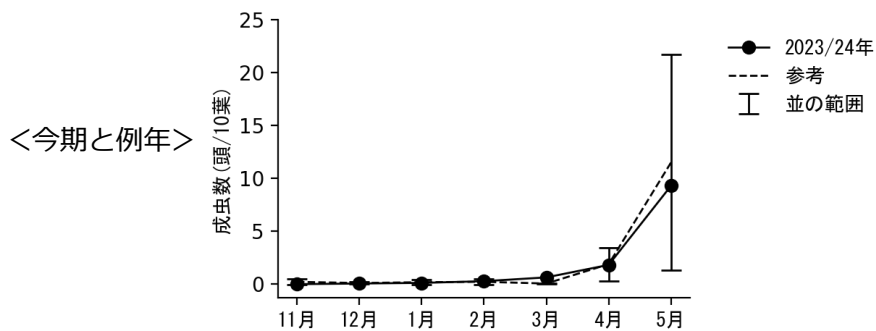
防除のポイント

- ・多湿条件で発生し、その後乾燥が続くと被害が拡大するため、湿度管理に注意する。
- ・過繁茂を避け、透光通風を良くする。
- ・老葉や病葉は伝染源になるので除去し、施設外に持ち出し処分する。
- ・多発すると防除が困難になるため、予防散布に重点をおく。硫黄粉剤による予防は効果が期待できる。

作物	とうがん(施設・立体栽培)	地域	宮古群島
病害虫名	ミナミキイロアザミウマ		
調査結果	5 月の発生量 (例年比)	並	
予報	5 月からの増減傾向	—	
	6 月の発生量 (例年比)	—	
予報の根拠			

調査結果

成虫数の推移



・発生施設率66.7% (参考：62.5%)

防除のポイント

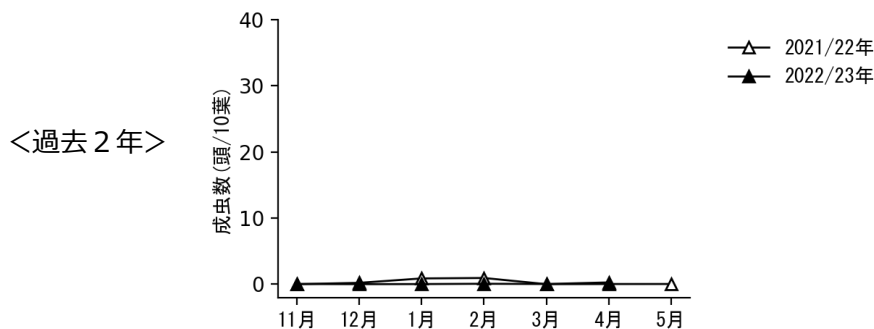
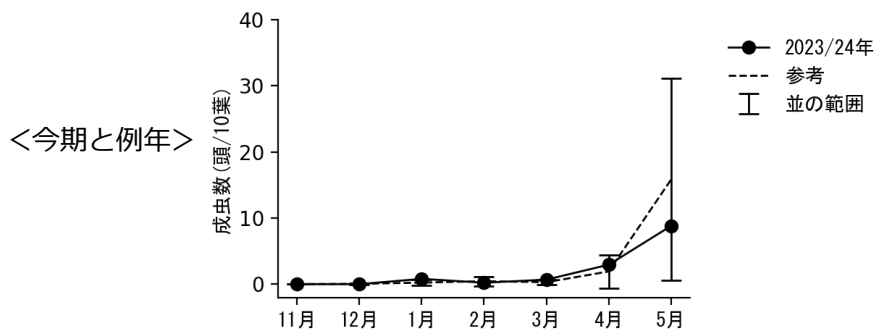
- ・本種はスイカ灰白色斑紋ウイルスを媒介する。
- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設の出入口や天窓は目合いの細かいネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ・多発すると防除が困難になるので、つる先や葉裏をよく観察し、早期発見・防除に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

作物	とうがん(施設・立体栽培)	地域	宮古群島
病害虫名	タバココナジラミ		
調査結果	5 月の発生量 (例年比)	並	
予報	5 月からの増減傾向	—	
	6 月の発生量 (例年比)	—	
予報の根拠			



調査結果

成虫数の推移




・発生施設率66.7% (参考：50.0%)

防除のポイント

- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設の出入口は目合いの細かいネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ・黄色粘着テープ等により、早期発見・防除に努める。
- ・幼虫は下位葉の葉裏に多いことに留意しながら薬剤散布を行う。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避け、気門封鎖系等の薬剤も利用する。

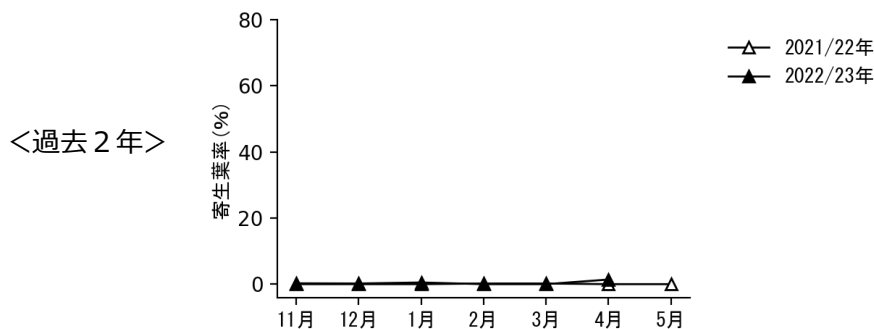
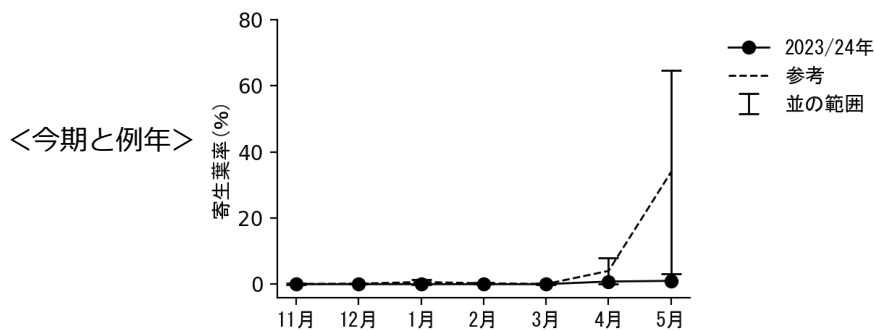


幼虫

作物	とうがん(施設・立体栽培)	地域	宮古群島
病害虫名	ハモグリバエ類		
調査結果	5 月の発生量 (例年比)	やや少	
予報	5 月からの増減傾向	—	
	6 月の発生量 (例年比)	—	
予報の根拠			

調査結果

寄生葉率の推移




・発生施設率66.7% (参考：37.5%)

防除のポイント

- ・発生源となる施設内外の雑草除去に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・幼虫期間が短いため、葉面に産卵痕や食害痕が見え始めたら防除を開始する。
- ・防除効果は幼虫の体色で判断する。生存時は黄色で死亡すると黒変する。

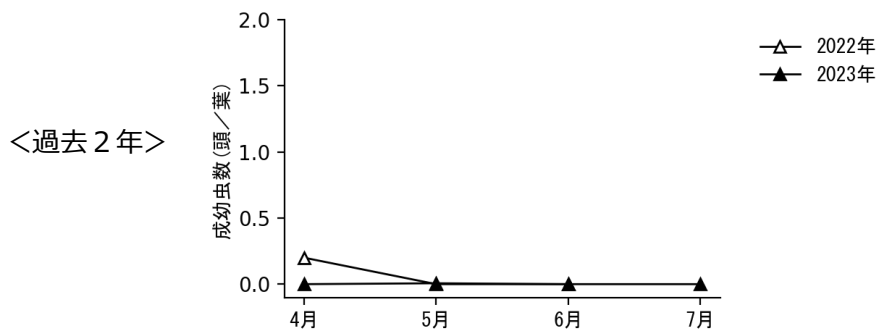
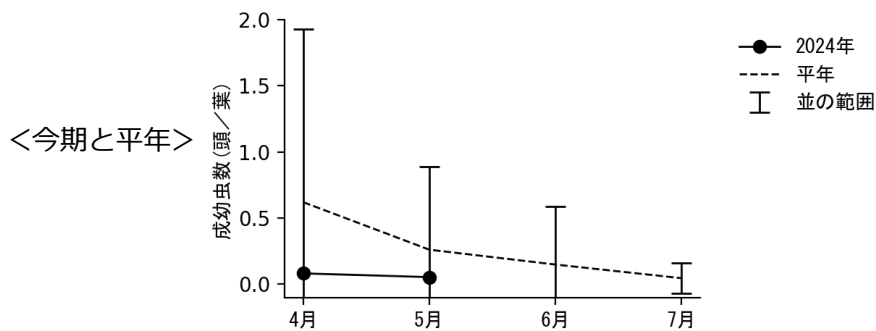


幼虫の死骸
(農薬などで死亡すると黒色に変色)

作物	オクラ	地域	宮古群島
病害虫名	① アブラムシ類		
調査結果	5 月の発生量 (平年比)	並	
予報	5 月からの増減傾向	↘	
	6 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↘)	

調査結果


成幼虫数の推移



・発生ほ場率60.0% (平年 : 32.0%)

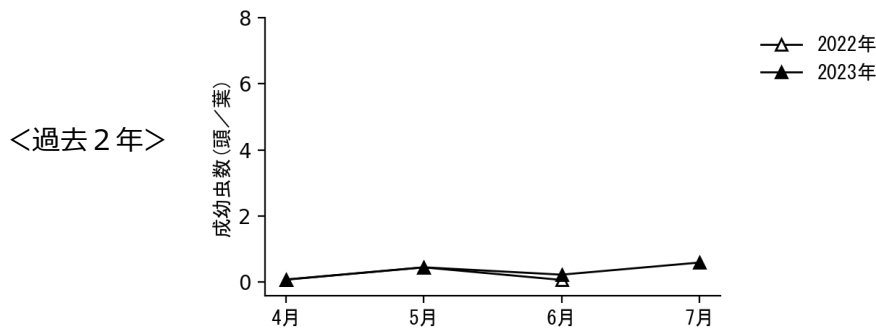
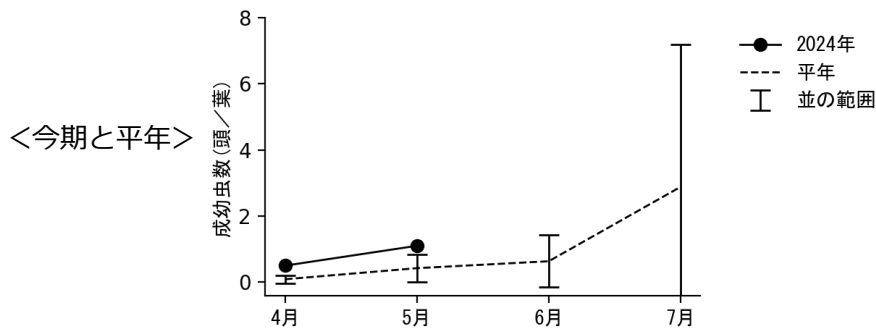
防除のポイント

- ・多発すると新葉の萎縮や芯止まりにより生長が阻害されるため、葉裏をよく観察し、早期発見・防除に努める。
- ・発生源となるほ場内外の雑草を除去する。

作物	オクラ		地域	宮古群島	
病害虫名	② フタテンミドリヒメヨコバイ		 <p>成虫</p>		
調査結果	5 月の発生量 (平年比)	やや多			
予報	5 月からの増減傾向	→			
	6 月の発生量 (平年比)	並			
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)			

調査結果

成幼虫数の推移

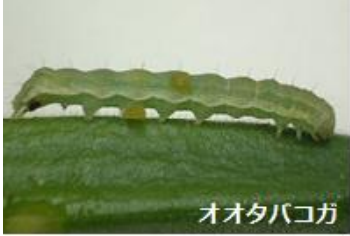


・発生ほ場率100% (平年 : 62.0%)

防除のポイント

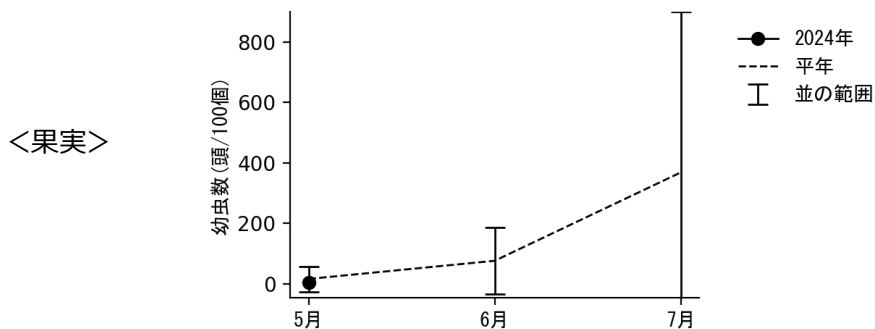
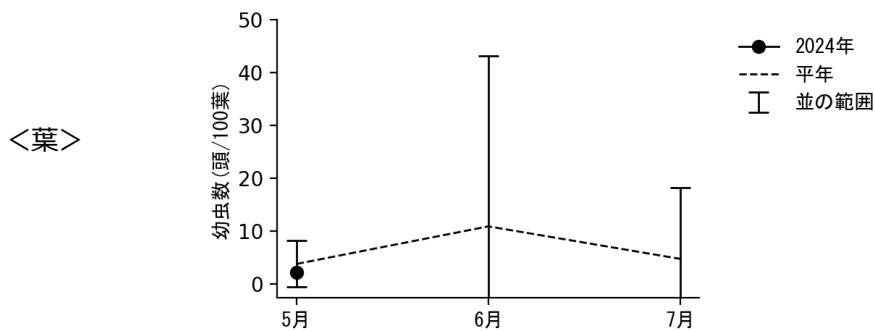
・多発すると被害葉は黄変萎縮するので、葉裏を観察し、早期発見・防除に努める。



作物	オクラ	地域	宮古群島
病害虫名	③ チョウ目幼虫		
調査結果	5 月の発生量 (平年比)	並	
予報	5 月からの増減傾向	↗	
	6 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

幼虫数の推移 (今期と平年)




・発生ほ場率80.0% (平年 : 44.0%)

防除のポイント

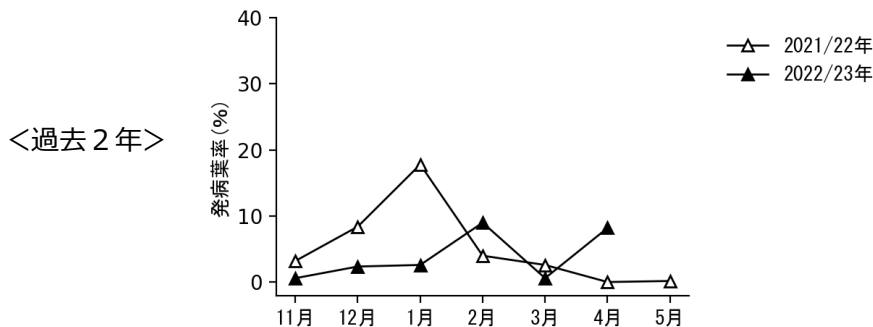
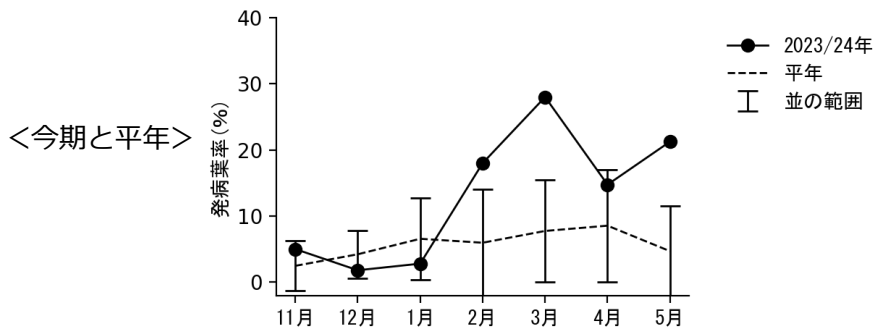
- ・発生密度が低い場合は、捕殺が有効である。
- ・食害痕を発見したら、速やかに薬剤を散布する。



作物	ニガウリ(施設)		地域	宮古群島
病害虫名	うどんこ病			
調査結果	5 月の発生量 (平年比)	やや多		
予 報	5 月からの増減傾向	—		
	6 月の発生量 (平年比)	—		
予報の根拠				

調査結果


発病葉率の推移



・発生施設率75.0% (平年 : 37.9%)

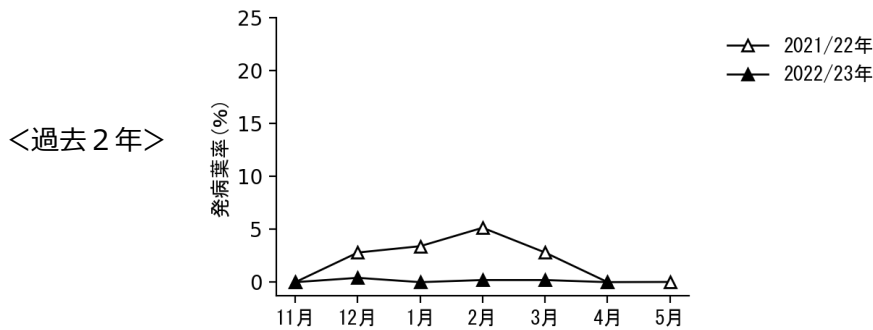
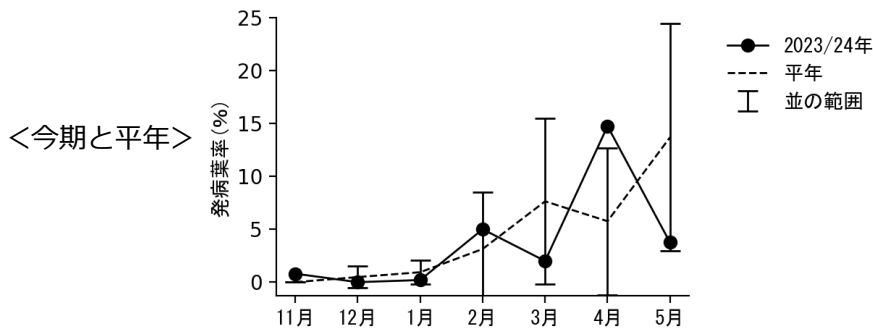
防除のポイント

- ・多湿条件で発生し、その後乾燥が続くと被害が拡大するため、湿度管理に注意する。
- ・過繁茂を避け、透光通風を良くする。
- ・老葉や病葉は伝染源になるので除去し、施設外に持ち出し処分する。
- ・多発すると防除が困難になるため、予防散布に重点をおく。硫黄粉剤による予防は効果が期待できる。

作物	ニガウリ(施設)		地域	宮古群島
病害虫名	斑点病			
調査結果	5 月の発生量 (平年比)	並		
予報	5 月からの増減傾向	—		
	6 月の発生量 (平年比)	—		
予報の根拠				

調査結果


発病葉率の推移



・ 発生施設率50.0% (平年 : 62.1%)

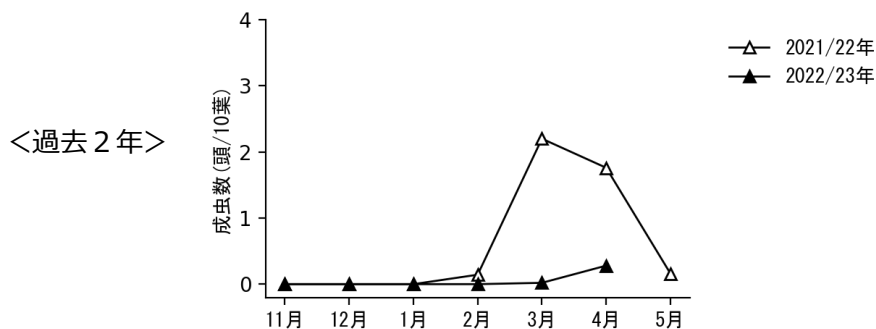
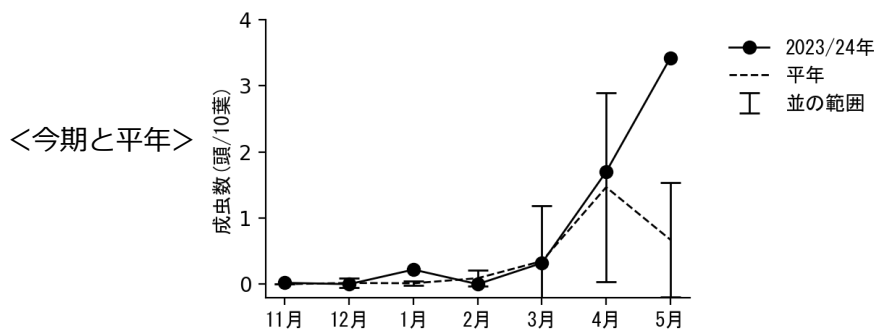
防除のポイント

- ・ 葉には周囲が黄色で中央が灰色の円形病斑を形成し、果実では表面にすす状のカビを生じる。
- ・ 多湿条件で発生が助長されるため、湿度管理に注意する。
- ・ 過繁茂を避け、透光通風をよくする。
- ・ 老葉や病葉は伝染源になるので、施設外に持ち出し処分する。

作物	ニガウリ(施設)		地域	宮古群島
病害虫名	ミナミキイロアザミウマ			
調査結果	5 月の発生量 (平年比)	多		
予報	5 月からの増減傾向	—		
	6 月の発生量 (平年比)	—		
予報の根拠				

調査結果


成虫数の推移



・発生施設率50.0% (平年 : 31.0%)

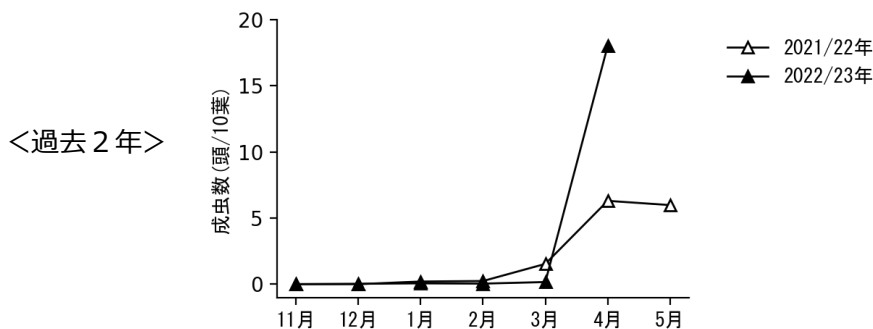
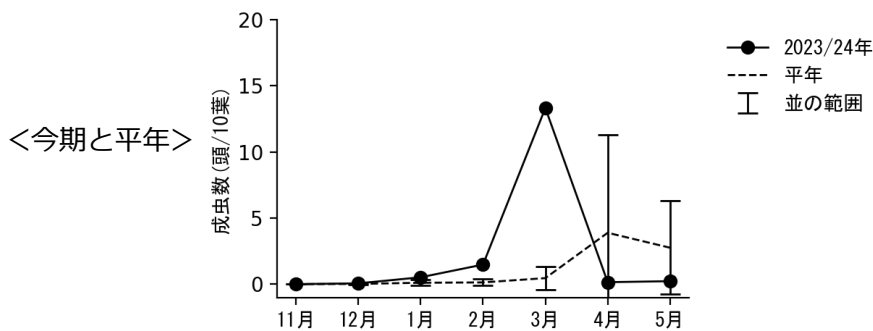
防除のポイント

- ・本種は吸汁により果実表面にケロイド状の被害を生じるほか、スイカ灰白色斑紋ウイルスを媒介する。
- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・多発すると防除が困難になるので、つる先や葉裏をよく観察し、早期発見・防除に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

作物	ニガウリ(施設)		地域	宮古群島
病害虫名	タバココナジラミ			 <p>成虫</p>
調査結果	5 月の発生量 (平年比)	並		
予報	5 月からの増減傾向	—		
	6 月の発生量 (平年比)	—		
予報の根拠				

調査結果

成虫数の推移




・発生施設率50.0% (平年：34.5%)

防除のポイント

- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・黄色粘着テープ等により、早期発見・防除に努める。
- ・幼虫は下位葉の葉裏に多いことに留意しながら薬剤散布を行う。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避け、気門封鎖系等の薬剤も利用する。

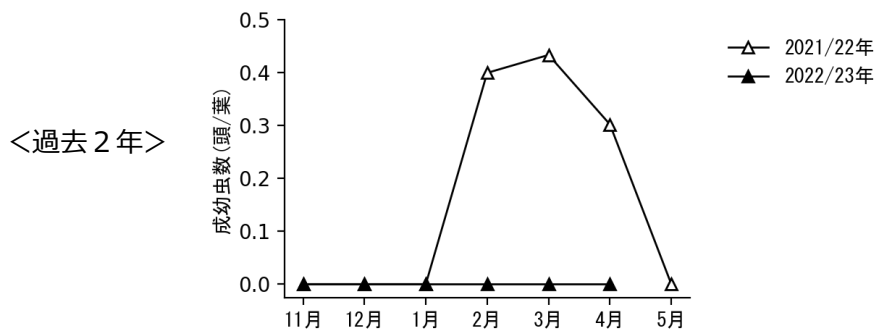
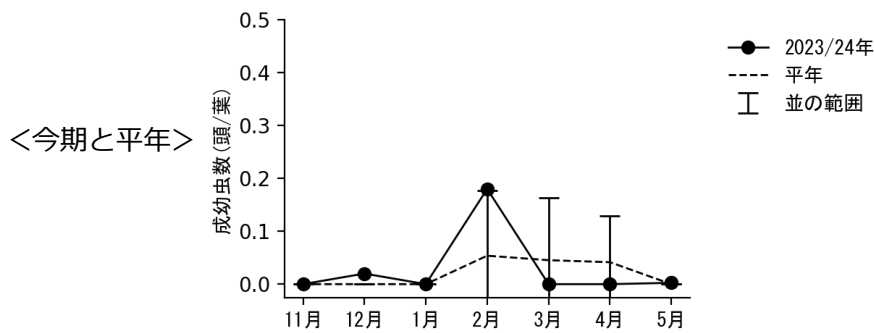


幼虫

作物	ニガウリ(施設)		地域	宮古群島
病害虫名	アブラムシ類			
調査結果	5 月の発生量 (平年比)	並		
予報	5 月からの増減傾向	—		
	6 月の発生量 (平年比)	—		
予報の根拠				

調査結果

成幼虫数の推移



・発生施設率25.0% (平年：0%)

防除のポイント

- ・アブラムシ類はズッキーニ黄斑モザイクウイルスやパパイヤ綸点ウイルス等を媒介する。
- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・早期発見に努め、薬剤が葉裏にかかるよう丁寧に散布する。